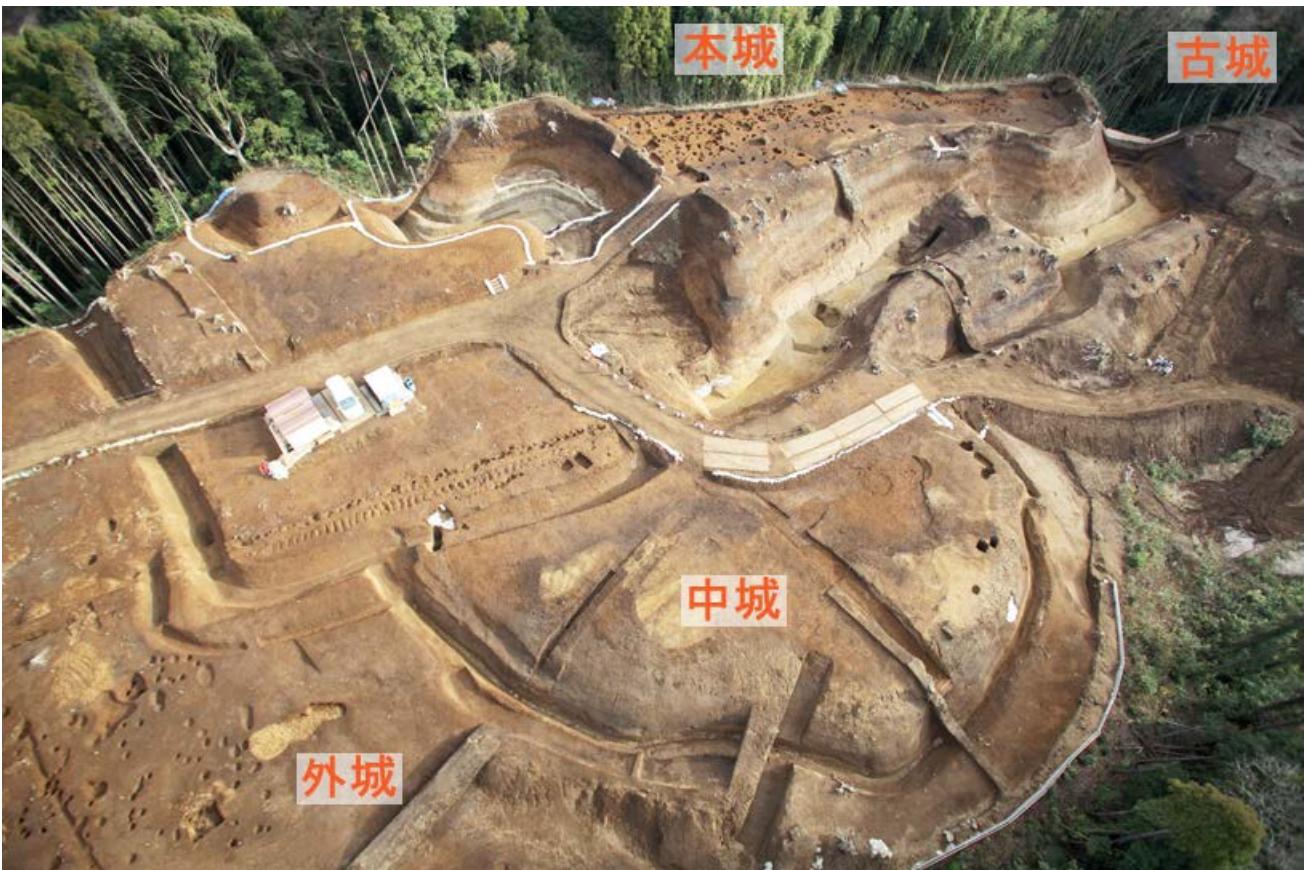


こにしじょう
大網白里町 小西城跡



西側から撮影



北西側から撮影



北西側から撮影

最近の調査で本城西側の空堀(からぼり)(a)があちこちで折れ曲がっていることや、深さが約15mもあることが判明しました。また、堀の底には陥穴(おとしあな)も見つかっています。



本城北側の堀

中城西側や本城北側の堀(b)で明らかとなった、箱堀の内側に断面がV字形の薬研堀(やげんぼり)を掘り直す改修が、本城と古城の間の空堀(c)でも発見されました。

本城北側の土橋(d)は、江戸時代以降に造られたものです。戦国時代の大手(城の正面)は本城西側で、中城方向から土塁(e)の上を通り、虎口(こぐち)(f)から本城に入りました。土塁と虎口には高低差があるので、橋または階段を使っていたと思われます。



土塁・虎口部分の拡大

本城内では、何度も建て替えられた掘立柱建物跡の柱穴や半地下式の倉庫跡が多く見つかりました。主殿を含むと思われる多くの建物が北側に集中し、虎口周辺から南が広場になっていたことがわかりました。

今後は、土橋(d)に埋もれた空堀の掘り上げや、古城や現在の通路の下の中世遺構、本城・中城の築城時の盛土や土塁の下の縄文時代から奈良・平安時代の集落跡の調査を行う予定です。